

2. 概 要

2-1 入港船舶の概要

気仙沼港入港船舶前年比較表

内・外航船別		平成19年 (A)	構成比 (%)	平成18年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	隻 数	4,966	100.0	4,954	12	100.2
	総トン数	1,400,424	100.0	1,402,167	△ 1,743	99.9
外 航 船	隻 数	3	0.1	11	△ 8	27.3
	総トン数	11,528	0.8	43,672	△ 32,144	26.4
内 航 船	隻 数	4,963	99.9	4,943	20	100.4
	総トン数	1,388,896	99.2	1,358,495	30,401	102.2

平成19年における気仙沼港の入港船舶は、隻数が4,966、総トン数が1,400,424総トンであり、前年と比較して、隻数で12隻（0.2%）増加し、総トン数では1,743総トン（0.1%）減少している。

トン数階級別では、100総トン以上500総トン未満の船型が4,718隻と最も多く、全体の95.0%を占めている。

(1) 外航船

外航船は、隻数で3隻と前年より8隻（72.7%）減少し、総トン数では11,528総トンと32,144総トン（73.6%）減少している。

トン数階級別では、3,000総トン以上6,000総トン未満の船型が2隻と最も多く、外航船の66.6%を占めている。

(2) 内航船

内航船は、隻数で4,963隻と前年より20隻（0.4%）増加し、総トン数では1,388,896総トンと30,401総トン（2.2%）増加している。

トン数階級別では、100総トン以上500総トン未満の船型が4,718隻と最も多く、内航船の95.0%を占めている。

2-2 海上出入貨物の概要

気仙沼港海上出入貨物前年比較表

区 分		平成19年 (A)	構成比 (%)	平成18年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計		858,603	100.0	873,437	△ 14,834	98.3
外貨貨物	輸 出	585	0.1	2,321	△ 1,736	25.2
	輸 入	0	0.0	730	△ 730	0.0
	計	585	0.1	3,051	△ 2,466	19.2
内貨貨物	移 出	274,127	31.9	269,220	4,907	101.8
	移 入	583,891	68.0	601,166	△ 17,275	97.1
	計	858,018	99.9	870,386	△ 12,368	98.6

平成18年における気仙沼港の取扱貨物量は858,603トンであり、前年と比較して14,834トン(1.7%)減少している。

そのうち、外貨貨物は585トンで全体の0.1%、内貨貨物は870,386トンで全体の99.9%となっている。

気仙沼港主要取扱貨物前年比較表(81品目)

品 種	平成19年 (A)	構成比 (%)	平成18年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	858,603	100.0	873,437	△ 14,834	98.3
999 自航(フェリー)	547,690	63.8	539,820	7,870	101.5
311 重 油	143,732	16.7	149,530	△ 5,798	96.1
321 石 油 製 品	124,445	14.5	132,745	△ 8,300	93.7
211 非 金 属 鉱 物	42,151	5.0	46,650	△ 4,499	90.4
081 水 産 品	503	0.0	2,790	△ 2,287	18.0
そ の 他	82	0.0	1,902	△ 1,820	4.3

取扱貨物については、自航(フェリー)が取扱貨物量全体の63.8%を占め、前年と比較して7,870トン(1.5%)増加している。

自航を除いた主な品種は、重油、石油製品、非金属鉱物であり、それらで取扱貨物量全体の36.2%を占めている。

(1) 輸 出

気仙沼港主要輸出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成19年 (A)	構成比 (%)	平成18年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	585	100.0	2,321	△ 1,736	25.2
081 水 産 品	503	86.0	2,060	△ 1,557	24.4
471 その他製造工業品	82	14.0	261	△ 179	31.4

輸出は 585 トンで、貨物量全体の 0.1%であり、前年と比較して 2,231 トン（74.8%）減少している。
品種は、水産品とその他製造工業品である。

(2) 輸 入

気仙沼港主要輸入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成19年 (A)	構成比 (%)	平成18年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	0	—	730	△ 730	—
081 水 産 品	0	—	730	△ 730	—

輸入は 0 トンで、貨物量全体の 0.0%であり、前年と比較して 730 トン減少している。

(3) 移 出

気仙沼港主要移出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成19年 (A)	構成比 (%)	平成18年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	274,127	100.0	269,220	4,907	101.8
999 自航（フェリー）	273,590	99.8	267,690	5,900	102.2
161 砂 利 ・ 砂	0	—	1,510	△ 1,510	—
471 その他製造工業品	0	—	20	△ 20	0.0
そ の 他	537	0.2	646	△ 646	83.1

移出は 274,127 トンで、貨物量全体の 31.9%を占めており、前年と比較して 4,907 トン（1.8%）増加している。そのうち、自航（フェリー）が移出全体の 99.8%となっているが、前年と比較して 5,900 トン（2.2%）増加している。

自航を除いた主な品種は重油と石油製品であり、移出全体の 0.2%を占めている。

(4) 移入

気仙沼港主要移入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成19年 (A)	構成比 (%)	平成18年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	583,891	100.0	601,166	△ 17,275	97.1
999 自航 (フェリー)	274,100	47.0	272,130	1,970	100.7
311 重 油	143,575	24.6	149,530	△ 5,955	96.0
321 石 油 製 品	124,065	21.2	132,745	△ 8,680	93.5
211 非 金 属 鉱 物	42,151	7.2	46,650	△ 4,499	90.4
そ の 他	0	—	111	△ 111	—

移入は 583,891 トンで、貨物量全体の 68.0%を占めており、前年と比較して 17,275 トン（2.9%）減少している。

そのうち、自航（フェリー）が移入全体の 47.0%となっており、前年と比較して 1,970 トン（0.7%）増加している。

自航を除いた主な品種は重油、石油製品、非金属鉱物であり、これらで移入全体の 53.0%を占めている。

2-3 施設利用の概要

(1) 入港船舶（500 総トン以上の船舶）

気仙沼港入港船舶公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭		専用埠頭		公共埠頭の比率 (%)	
	隻 数	総トン数	隻 数	総トン数	隻 数	総トン数
平成19年 (A)	57	56,687	111	98,204	33.9	36.6
平成18年 (B)	52	76,936	123	107,527	29.7	41.7
増減 (A)-(B)	5	△ 20,249	△ 12	△ 9,323	—	—
前年比 (%)	109.6	73.7	90.2	91.3	—	—

入港船舶（500 総トン以上）の係留状況について、公共・専用別にみると、公共埠頭が 57 隻の利用で全体の 33.9%を占めており、前年と比較して 5 隻（9.6%）増加している。専用埠頭については、111 隻で全体の 66.0%を占めており、前年と比較して 12 隻（9.8%）減少している。

総トン数については、公共埠頭が 56,687 総トンで全体の 36.5%を占めているものの、前年と比較して 20,249 総トン（26.3%）減少している。また、専用埠頭は 98,204 総トンで全体の 63.4%を占めており、前年と比較して 9,323 総トン（8.7%）減少している。

(2) 海上出入貨物

気仙沼港海上出入貨物公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭	専用埠頭	公共埠頭の比率
	(フレート・トン)	(フレート・トン)	(%)
平成19年 (A)	590,426	268,177	68.8
平成18年 (B)	596,362	298,735	66.6
増減 (A)-(B)	△ 5,936	△ 30,558	—
前年比 (%)	99.0	89.8	—

※ 自航（フェリー）を含んだものである。

取扱貨物量について公共・専用別にみると、公共埠頭が 596,426 トンで全体の 68.8%を占めており、前年と比較して 5,936 トン（1.0%）減少している。

また、専用埠頭については 268,177 トンで全体の 31.2%を占めており、前年と比較して 30,558 トン（10.2%）減少している。